

## 地学基礎[分析]

## 基礎的な知識を問う問題が多く、第1日程よりもやや易しかった

思考力や判断力を必要とする難しい問題は少なく、やや易しかった。

## 難易度（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

やや易

第1日程よりも基礎的な知識を問う問題が多く、図や表を使って考察する難しい問題が少なかった。全体としてやや易しかった。

## 出題分量（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

大問は3題、マーク数は15で変化はなかった。

## 出題傾向分析（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

地学基礎の各分野からバランスよく出題されている。第1日程よりも図や表を用いて考察する問題が少なかった。一方、第1日程よりも文章量はやや多く、6択問題も2問から5問に増加した。また、試行調査に見られたレポート形式の問題や完答問題などは見られず、第1日程やセンター試験に似た傾向の問題が多かった。

## 2021年度【第2日程(1月30日・31日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数	テーマ
第1問	地球	27	8	A 地球の変遷と活動
				B 地質と地質時代の生物
				C 岩石と鉱物
第2問	大気と海洋	13	4	A 地球のエネルギー収支と熱の輸送
				B 地球における大気と海洋の温度
第3問	宇宙	10	3	太陽系
合計		50	15	

## 2021年度【第1日程(1月16日・17日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数	テーマ
第1問	地球	24	7	A 地球の活動
				B 砕屑物の挙動
				C 岩石
第2問	大気と海洋、環境	13	4	A 台風と高潮
				B 地球温暖化
第3問	宇宙	13	4	A 太陽と宇宙の進化
				B 天体の観測
合計		50	15	

## 設問別分析

## 第1問

地球分野からの出題であった。問1は、地球形成初期の大気と海洋に関する基本的な知識問題であった。問2は、プレート境界付近で見られる火山や地震に関する基本的な問題で、プレートの運動と火山・地震などの地学現象を総合的に理解しておく必要があった。問3は、地震のマグニチュードとエネルギーに関する計算問題であった。マグニチュードが1.0大きいとエネルギーが約32倍大きいという知識を用い、図を読み取って計算すればよい。問4は、地質断面図から最も古い地層を決める問題であった。図を丁寧に見れば解答できたであろう。問5は、断層に関する考察問題であった。地層のずれ方から断層の種類を決め、示準化石と地層の形成順序から断層の活動時期を推定すればよい。問6は、不整合に関する基本的な知識問題であった。問7は、城の石垣の観察結果から岩石の種類を判断する考察問題であった。観察結果の誤りを特定する出題形式で、試行調査と似ていた。岩石の特徴をきちんと学習していれば、正誤の判断は容易だったであろう。

## 第2問

大気と海洋分野からの出題であった。問1は、太陽放射と地球放射に関する基本的な知識問題であった。問2は、大気と海洋の熱輸送量を読み取る考察問題で、冷静に図と問題文を読めば解答にたどり着ける。問3は、大気圏の構造の知識と気圧に関する数値処理を組合せた考察問題で、やや難しい。問4は、海洋の層構造に関する基本的な知識問題であった。

## 第3問

宇宙分野からの出題であった。問1は、核の元素組成と地球誕生に関する基本的な知識問題であった。問2は、宇宙の元素組成に関する考察問題で、第3位と第4位は会話文から読み解いていく問題であった。問3は、小惑星に関する知識問題で、教科書に掲載されている図をしっかりと覚えていれば解くことができる。

## 過去平均点の推移

21年度※ 【第1日程】 (1月16日・17日)	20年度	19年度	18年度	17年度
33.5	27.0	29.6	34.1	32.5

※2021年度の平均点は1/22大学入試センター発表の中間集計その2の平均点です。